猫のたたりのはなし

むかし古猫がとなり近所の鶏をとって食べ、手あましとなっていたんだどぉ。それでその家の主人は「このまま生かしておく分には出来ねい。」とその猫を殺して、屋敷の隅に穴を堀って埋めたんだどぉ。ところがあとでこの墓の上に、不思議なきのこがぞくぞく生えてきたんだどぉ。主人は「これは猫のたたりかも知れねえ。食べてはならねえぞぉ。」と、いってそのきのこをみなとって小便だめに捨てさせたんだどぉ。ところがしばらくたって、小便だめに鰌がいっぱい泳いでいるのを見つけたんだどぉ。「おや小便だめにぼうふらのように不思議な鰌がいるわい。」主人はそう思って「猫のたたりかも知れない。たべるでない。」そういましめたんだどぉ。しばらくしたらその墓にかぼちゃが生えて、たくさんなったんだどぉ。ここに種子を捨てた覚えはない。主人は「これもたたりだ。たべてはならないと堅くいましめ、命拾いをしたんだどぉ。